

# 三田市暮らしの交通まちづくりワークショップ（全2回）

三田市は大きく10の地区に分かれており、それぞれの地区では異なる交通事情の中で課題を抱えています。市民の皆様が日常生活の中で身近に感じるバスや鉄道などの問題点や、こうすれば利用しやすくなるのではといった地域公共交通について一緒に考える場として「暮らしの交通まちづくりワークショップ」を開催しました。

ワークショップは10地区ごとに全2回開催し、地域公共交通を通じて住みよい、住み続けたいまちづくりへの取組みが話し合われました。



**地域課題**





**地域提案**

|            | <b>三 田</b> |   |
|------------|------------|---|
| <b>三 輪</b> | <b>三 輪</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 15分、30分間隔でのバスの運行。</li> <li>● バスの時間に合わせた生活も必要。</li> <li>● 目的地に行きやすいバス停の環境整備。<br/>例えば・・・バス停を近く。(アクセスしやすく) 終点(行き先)だけでなく、途中のバス停も分かりやすくする。</li> <li>● 市内定額バスの運行。</li> <li>● タクシーの運賃助成の充実。</li> <li>● 鉄道とバスの住み分けが必要。</li> </ul>  |
| <b>高 平</b> | <b>高 平</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 拠点での小型バスと大型バスの乗り継ぎ。</li> <li>● 小型バス⇒バス停以外でも乗降可能・均一料金。(手挙げ方式)</li> <li>● バス停や、駅と公共交通を結ぶレンタル電動自転車の利用。</li> <li>● 新しい取り組み開始時のサービスのPRのほか、バスの乗り方教室やお得なバスの利用方法等、既存のサービスについても地域ぐるみで情報を提供。</li> </ul>  |
| <b>高 平</b> | <b>高 平</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 神姫バスとの乗り継ぎ拠点までは地域による小型バスの運行。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域の奥まで小回りのきく運行。</li> <li>➢ ブロックに分けた乗り継ぎ(距離が長く時間がかかるため)。</li> <li>➢ 高齢者にも利用しやすい運行システム。</li> </ul> </li> <li>● 好意に頼らない地域での自主運営。</li> <li>● 役割分担が必要。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 採算がとれるところ→事業者</li> <li>➢ 採算がとれないところ→行政</li> <li>➢ 行政でもできないところ→地域</li> </ul> </li> </ul> |

## 小野



- 志手原にバスロータリー（拠点）を整備。
- 拠点からは地域への小型の巡回バスの導入。
- バス停までの地域の助け合い。
- バスなどの公共交通の利用促進に向けた取り組み
  - 年代別乗り継ぎ割引、バスに乗るしかけづくり 等。
- 移動しなくてもよい地域づくり（移動販売等）。

## 広野



- 広野市民センターを神姫バスとの乗り継ぎ拠点として整備。
- 移動販売等の開催による広野の地域中心としての機能強化。
- 地域と行政が連携した拠点から北部を運行する移動手段を導入。
  - 市は車両、地域は運転手とサポーターを提供。
  - 好きな時間、好きな場所で乗降可能。
- 地域で考えながら運行し、よりよいものに。

## 本庄



- 新三田方面へのバスルートの確保。
- 必要な時間に応じたデマンドバスの運行。
- 多目的のバスへの同乗（買い物バスの運行等）。
- 高齢者が公共交通の情報を共有できるツールの充実。
- ボランティア活動の次世代へ情報引継ぎ。

## 藍



- ボランティア活動の持続に向けたしくみづくり。
- 潜在需要はまだまだある。
- 組織づくり・人材育成が大事。
- タクシー運賃を安くするための工夫。
- 乗合タクシー、店舗からの送迎 等。

## フラワータウン



- 割引制度のPR等、情報の共有や、事業者との連携が必要。
- 時間帯や利用に応じた車両やルート等の運行の変更。
- 公共施設・病院への乗継割引。
- ゴルフ場送迎バス等の活用。
- バス優先レーン、バス停周辺のバリアフリー等、バスの利便性向上に向けた道路整備。

## ウッディタウン



- 交通事業者、地域の役割分担を明確に。
  - 鉄道：都市間
  - 神姫バス：駅へ
  - タクシー：家からバス停
  - 地域：地域・街区内。
- 時間帯によるバスのルート変更。
  - 朝夕：駅（通勤通学）、昼間：駅以外
- 学校以外も行きやすい定期の多様化。
- 自転車を乗せられる電車やバスの運行で乗車前後の移動手段の確保

## カルチャータウン



- ウッディタウンをハブとしたバス網の整備等、バスルートの再編。
  - 高齢者のニーズにあったバスの運行。
  - 関学だけでなく、地域の高齢者にも配慮。
  - 利用しやすいバス料金の設定。
- 地域全体で支えあう仕組づくり。
- 関学バスを自動運転で三田をPR。

- 開催日：（第1回）平成29年10月7日・（第2回）平成29年11月11日・12日
- 参加者：（第1回）69名・（第2回）55名

## 三田

さんの公共交通 sanda

これまで これから➡

### ～三田市公共交通まちづくりシンポジウムより～

地域公共交通は、運転免許を持たない人や、自由にクルマを使うことができない若者や高齢者等の自由闊達な外出を助けてくれるだけでなく、人を運ぶことで生まれる地域間の交流や賑わいなど、様々な形で地域の活動を支援しています。そしてこれは、都市の骨格形成、まちづくりにも大きく影響しています。

これからの三田市のまちづくりを考える上でも、地域の人たちの移動性を高めるような『使える』公共交通を構築していくことが必要です。皆さんの普段の暮らしにおいて、地域公共交通を気軽に使ってもらえるような仕組みをつくるためには地域の皆さんの参加や協力が不可欠です。「あれば良い」と「無ければ困る」とは大きく異なります。本当に困っている人、困っていることは何か、鉄道やバス、タクシーや地域の皆さんと一緒に『使える』公共交通のための方策を考えていきましょう。

（大阪大学COデザインセンター特任教授 土井 勉氏）

- 参加者の皆さんの意見（感想）いただいたご意見の一部をご紹介します。

- ◇ その地域に実際住んでいる人の意見が聞けてよかった。我々の世代（60歳）の間近に迫った未来における交通手段を真剣に考えられたことがよかったので。
- ◇ 近未来の自分たちの交通手段をどのようにしていくかについて積極的に考えていきたいと思った。
- ◇ 規模が小さかったのと地域が近いので話し合われた内容、発表の内容もわかりやすかった。これから予定されていると思うが連合区長会に依頼して各地区ごとに協議していけるような動きをお願いします。

